

## ゼレンスキーの胸像を米議事堂に飾れと言う者がいる！

いかにそれが、ワシントンの腐敗を物語るか？

<https://www.infowars.com/posts/why-proposal-to-place-zelensky-bust-in-capitol-speaks-volumes-about-corruption-in-dc/>

Ekaterina Blinova | Sputnik | Infowars

January 13, 2023

サウスカロライナの共和党代表ジョー・ウィルソンは、ウクライナの大統領ボロジミール・ゼレンスキーの胸像を、米連邦議事堂に設置する案を、今週初めに提出したが、彼の仲間の共和党議員たちから、批判を受けただけに終わった。

「この案は控えめに言っても笑うべきものだ」と、リバタリアン・コメンテーターで、ラジオホスト、代替メディアニュース・アナリストの Lisa Haven は、スプートニクに話した。「Joe Wilson と誰であれ、このナンセンスな案を支持する者は、あの国で野党を禁止し、そして現在、キリスト教を弾圧している、まさにあの男を支持しているのだ。これは、こんな待遇を受けるべき人物ではない。我々はすでに、民主党と RINO (名ばかり共和党) から、彼の受け続けている、アメリカ納税者による何十億というカネを通じて、ゼレンスキーに十分な崇拝を払っているのだ。我々は、人々が毎日拝むことのできる場所に、そんな胸像を持つ必要はない。ここはアメリカだ、ウクライナではない。」

サウスカロライナ代表ジョー・ウィルソンは、月曜日、ある提案を上程し、下院美術委員会がウクライナ大統領の胸像を手に入れ、議事堂ビルに、その彫像のための「適切な永遠の場所」を見つけるように指示した。

ウィルソンが、この反論の余地ある案を思いついたのは、これが初めてではなかった。2022年3月にも、この議員は、米議事堂にウクライナ大統領の胸像を置こうとした。

「誰でも、アメリカは、アメリカ人を助けることに関係なく、外国の紛争を取り締ったり、資金援助したりする、義務があると思っていない人々は、ゼレンスキーを（馬鹿々々しくも）胸像によって偉人化することに反対するだけでなく、これ以上、ゼレンスキーの国際的 Ponzi (詐欺) スキームに資金を出すことに、反対するだろう」と、共和党の政策コメンテーター Marc Little は、スプートニクに語った。これは明らかに、2021年10月の爆弾発表、「組織犯罪と腐敗報告プロジェクト」による「パンドラ・ペーパーズ」

に言及したものであった。この暴露報告は、ゼレンスキーのオフショア会社と、彼の長年の Ihor Kolomoisky との協力関係に光を当てるものであった。

<https://sputniknews.com/20220723/us-analyst-time-has-come-for-american-politicians-to-hold-kiev-responsible-for-endemic-corruption-1097725155.html>

コロモイスキーは、数十億ドルの詐欺の疑いでアメリカから追跡されている、ウクライナのオリガルヒである。

しゃにむに、ゼレンスキーの胸像を手に入れようとする、ウィルソンの努力に対して、共和党代表 Marjorie Taylor Greene (共、ジョージア) は、木曜日、「これは絶対に許されない。我々はアメリカのために生きている、ウクライナのためではない!」とツイートした。グリーンは、ウクライナ大統領への批判でよく知られている。2022年3月、彼女は公然とゼレンスキーを「腐敗している」とこき下ろした。

共和党代表 Andy Biggs (共、アリゾナ) は、グリーンのツイッターにエコーして、「千億ドル+のカネは、ウクライナに十分でなかったのか?」と言った。

2022年12月下旬、議会は、政府援助による法案を通過させたが、そこにはウクライナに対する450億ドルの援助が含まれていた。更にペンタゴンは、ウクライナ軍に対して、米パトリオット・ミサイルとともに、18.5億ドルを約束した。これより前、2022年5月には、アメリカ立法府は、全額で540億ドルをキエフに与える票決をした。

「私は、我々アメリカの立法者たちが、何人かの共和党員も含めて、我々アメリカの人民たちが、何を求め、何を必要としているかを、全く見失っていると思います」と、ヘイヴンは言った。「我々に焦点を当てるのではなく、また、多くのアメリカ人が今、飢えており、インフレによって財政的に傷ついているという事実にもかかわらず、彼らは、我々の納税による莫大なドルを、ある独裁者に送っているのです——それが我々に、どうしても必要だという事実にもかかわらず——。議会は、彼ら自身の人民でなく、政治的なゲームにより関心があるのです。そして彼らは、我々全員を、戦争の危険に曝そうとしています。彼らは〈我々人民〉には、全く関心がなく、アメリカ人は騙されているのです!」

**ゼレンスキーは、バイデンやその一統の、どんな弱みを握っているのか?**

アメリカの政治家の中には、特に民主党の陣営に、ウクライナに関して隠し事の多い人々がたくさんいる、とヘイヴンは言っている。彼女は、アメリカの政策決定者の中に、ゼレンスキーに弱みを握られている者があり、現職の米大統領の家族もその一部だと言っている。

る。長男のハンター・バイデンは、ウクライナのカス会社 Burisma の重役だったことがあり、彼はエネルギーやウクライナの経済政策に、何の専門的知識もないにもかかわらず、高給を受け取っていた。

2022年3月24日、ロシア防衛省は、ウクライナでのロシア特殊作戦中に得た文書を引用しながら、ハンター・バイデンとつながる会社 Rosemont Seneca が、アメリカの防衛請負業者と、「緊密な絆」を保持していることを明らかにし、そこには、Metabiota と Black & Veatcha (B&V) の他に、ウクライナにおけるペンタゴンの、生物プログラムの財政が参加していた。2022年3月25日には、「デイリー・メール」が、ハンターが実は、Metabiota のために「数百万ドルの援助を確保してやっていた」と報じた。

<https://sputniknews.com/20220513/bigwigs-bucks--biolabs-us-establishment-has-a-lot-of-skeletons-in-ukraines-closet-analyst-says-1095484299.html>

「メタビオタ」は、ペンタゴンの請負業者で、ウクライナで活動し、パンデミックを引き起こす、「生物兵器として使用可能な」病気の研究を、専門的にやっていた。

## アメリカ人は、バイデンの冒険主義によって、ますます生活が困難になっている

バイデン政権のウクライナに対する過剰な焦点は、あらゆる種類の紛争が、中東と北アフリカで起こった時期に目立って、多くを物語っていると、マーク・リトルは言っている。

「これら付加的な紛争へのアメリカの反応が、公的情報として全く存在しないということは、そのリーダーたちが歴史的に腐敗したウクライナにおいて、〈本当は何が起こっていたのか〉という物語を、十分に語るものだ」と、リトルは言った。「あなたは、当時の副大統領ジョー・バイデンの振舞いを、ビデオ・テープで見ただけでよい。彼はそこで、10億ドルのウクライナの主導権を主張し、息子のハンター・バイデンを調査した検察官をクビにせよと言っている。これは明らかに、アメリカ副大統領による犯罪行為だが、国際的な法違反がなかったところをみると、認められた慣行であるようだ。」

アメリカの経済が毎日のように疲弊していくときに、ウクライナ紛争に数百億ドルというカネを使うことは、全く意味をなさない、と彼は主張する。同じように、アメリカのネオコンたちが、東欧の紛争を利用しようとしているのは、まさに、バイデン政権が「アメリカ南国境を開放したままに任せ、何百万という未知の不法移民がこの国に侵入して、あらゆる恐ろしい結果をもたらしている時なのである。彼らは、給油ポンプのガソリン価格を吊り上げ、経済（インフレや不況）を食い物にし、ウクライナ争奪戦を企んでいるのだ。」

リトルによれば、アメリカ人は、国費浪費の直接の結果と、ロシア-ウクライナ紛争に対するバイデンの政策によって、ますます生活が苦しくなっている。

[関連記事] **Mike Yeadon** 博士が、COVID ワクチンは、それを受ける人々すべてに障害を与え、殺し、滅ぼすように意図されたものである証拠を提出。

<https://theinfowar.tv/watch?id=63bf03a085dfe912ff63847a>

### [訳者 Greatchain 注]

ゼレンスキーとはどういう人物なのか、全く知らなかった人にも、これで、かなりよく分かるであろう。彼の胸像を造って、アメリカの国家的功労者(?)として称えようという案が、たとえ直ちに否定されたとしても、それを正気で考えた者がいたということは、とてつもなく大きな意味をもつ。それが意味するのは、大きな字で書かれた米陣営の「腐敗」である。我々はアメリカの現政権を、そういうものとして考えねばならない。そしてそれはわが国にも、バッチリつながっている。

わが岸田首相は、何度も言うように、ロシア-ウクライナ戦争が始まったとき、「戦争をやめてくれ」とは、一言も言わなかった。ただ、一方的な被害者であるウクライナを助けるために、一方的な加害者であるロシアを叩くべきだ、と言った。そしてこれが今、世界を動かしていると言っても過言ではない。

今朝の新聞に出ている、岸田氏に対する相好を崩したバイデン老人の写真は、こう言っているように見える——「あなたも相当のワルだね——でもよくやっているよ。あなたが頑張ってくれているおかげで、私もある程度、寿命が延びたと思う。恩に着ていまず、どうか今後もよろしく。」